

[主訴]

うつ症状

[随伴症状]

身体のだるさ、倦怠感、身体がふわふわする、朝の食欲なし、鼻炎、肌荒れ、アトピー、手足がだるい、冷え性

[経過]

約3年前から起立性調節障害、うつ症状が現れる。
病院から処方された薬で治療中。
調子に波があり最近あまりよくないため来院。

[望診]

やせ型、体色は黒寄り。

太谿に色素沈着。

特に委中の色素沈着が強い。

一見元気がない感じだが常に鬱々としているわけではなく好きな音楽の話をするときは会話も笑顔も多くなる。

[切診]

肌はやや乾燥気味、足先の冷えが強い。

特に実している経絡はみられない。

[腹診]

全体的に非常に硬い。腹直筋緊張。

[脈診]

全体的に細く力なし。

右寸口重按で虚。右関上重按でもやや力あり。左尺中やや硬い。

[証の決定]

うつ症状がある場合は脾虚か肺虚に肝実が加わる場合が多い。今回はアトピー性皮膚炎や脈診から肺虚肝実と判断した。

[治療]

尺沢、復溜、陰谷、湧泉の補法。

肺兪、腎兪の補法。

行間、曲泉の瀉法。

[経過]

1 診後、ふわふわ感、だるさ、うつ症状、手足のだるさがある。

2 診後、治療2日後から気分が上向いた。

3 診後、寒くなると調子が悪い。今週はアトピーの状態もよくない。食欲なし。

5 診は肝実の脈がみられなかったため証を腎虚とする。

4 診までにうつ症状が一度改善したもののその後改善は認められず。

寒くなると調子が悪くなるらしく、身体が冷えに傾いているのは間違いない。

体質的には腎虚だと思われるので冷えがあるうちは腎虚の治療をしようつ症状の改善を図る。

長期間薬を服用している場合は自然治癒力が低下して回復が遅い傾向にあるが、あせらず治療を続けることで体調が上向いてくることを伝える。